

調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

- ・小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年
12校：698人
- ・中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年
6校：710人

(3) 調査内容

①教科に関する調査（小6：国語、算数）

（中3：国語、数学、英語）

- ・身に付けておかねば後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
 - ・調査問題では上記の2点を一体的に問うこととする
 - ・出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する
- ※中学校英語については、1人1台端末を用いた文部科学省CBTシステム（オンライン方式）による調査

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などの全てを表すものではありません。

結果の概要と今後へ向けて

【結果の概要】

○標準化得点で見ると、昨年度の結果と比べ、小学校の結果は、国語は0.9ポイント下降、算数は0.8ポイント下降、中学校の結果は、国語は0.2ポイント上昇、数学は0.3ポイント下降の結果となりました。

○本市では、門真市版授業づくりベーシック（学習指導要領に基づいた授業改善）を推進しています。その成果を「全国の平均正答率7割以上の問題」において図っており、本市においても同じく正答率7割以上をめざすということを一つの目標として取り組んでおります。その観点において今回の結果は以下の通りでした。

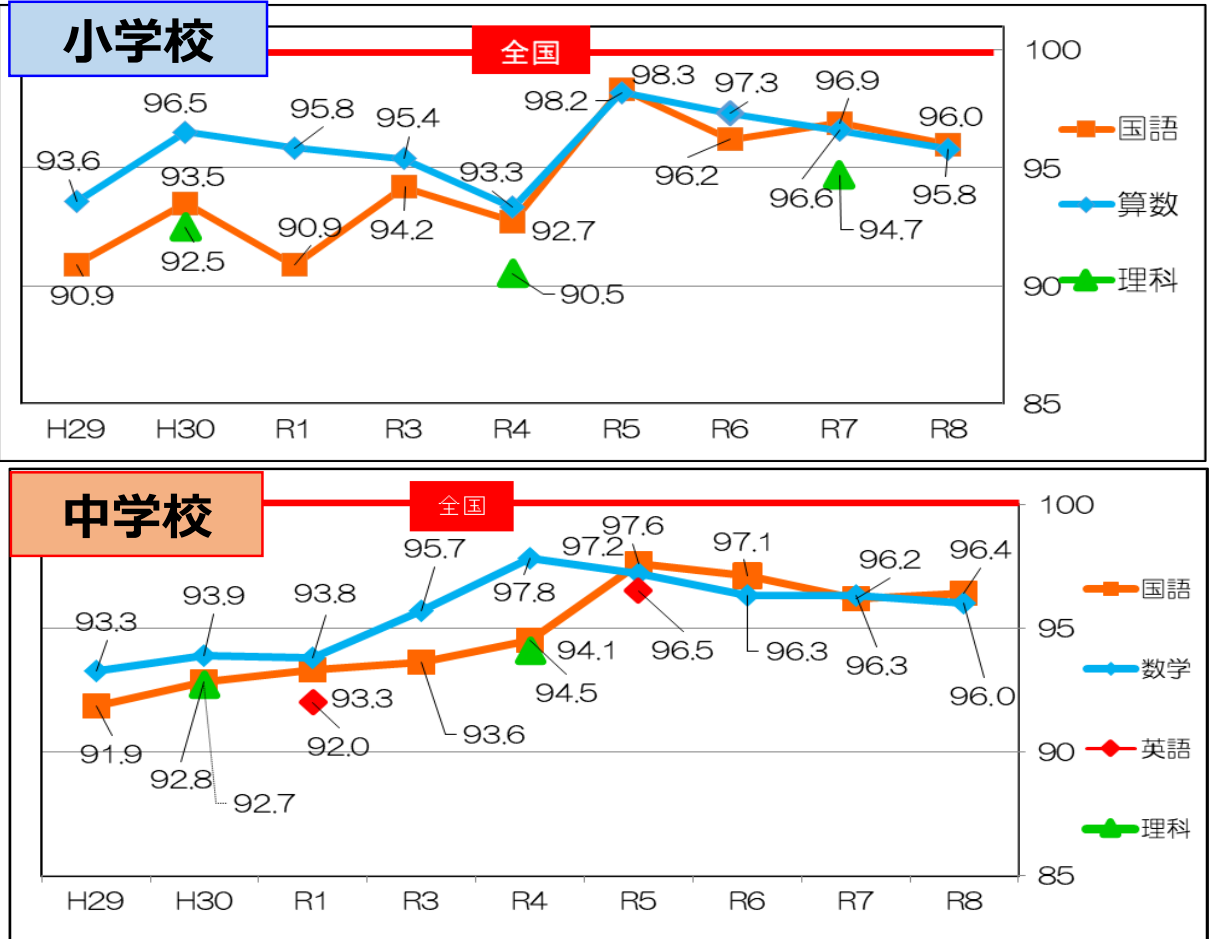
小学校6年	国語【全13問中】	全国（4問）	門真市（1問）
	算数【全16問中】	全国（4問）	門真市（1問）
中学校3年	国語【全15問中】	全国（7問）	門真市（3問）
	数学【全16問中】	全国（5問）	門真市（1問）



校種・教科・観点・区分別平均正答数

校種	令和8年度		
	門真市	大阪府	全国
小学校			
国語 (全13問)	6.7	7.7	7.9
算数 (全16問)	7.3	9.0	9.0
中学校			
国語 (全15問)	8.4	9.1	9.6
数学 (全16問)	7.3	8.8	9.1
英語 3技能 ※2（平均IRTスコア）	445	498	499

標準化得点(※1)を活用した対全国比経年比較



※1 標準化得点とは、全国平均との関係について年度間の相対的な比較ができるよう、計算されたものです。平成29年から平成30年までの国語・算数の調査結果は、A・B区分の平均値で表しています。

※2 今年度の中学校英語は、CBTシステムでの実施であり、生徒一人ひとりが異なった問題に取り組む場合があるため、平均正答数ではなく、IRT（項目反応理論）に基づき算出された平均スコアを参考資料として記載しています。IRTとは、テスト問題の難しさや生徒がどのような問題に正解したかといった情報をもとに子どもたちの学力を見取る方法です。（3技能：読むこと、書くこと、聞くこと）



【今後に向けて】

○門真市教育委員会では、門真市教育振興基本計画にある「門真のすべての子どもたちが、将来の自立をめざして、自分の生き方を見つけること」を目標に、小中一貫教育を通して「誰一人取り残さない学校」の実現に向けた取組を推進して参ります。

○今年度も門真市教育委員会指導主事、伴走チーム等が定期的に学校訪問を行うなど、授業づくりや校内研修デザインづくりをサポートし、教育委員会と学校が一体となって、子ども主体の学び、探究的な学びにおける授業改善の取組を推進して参ります。

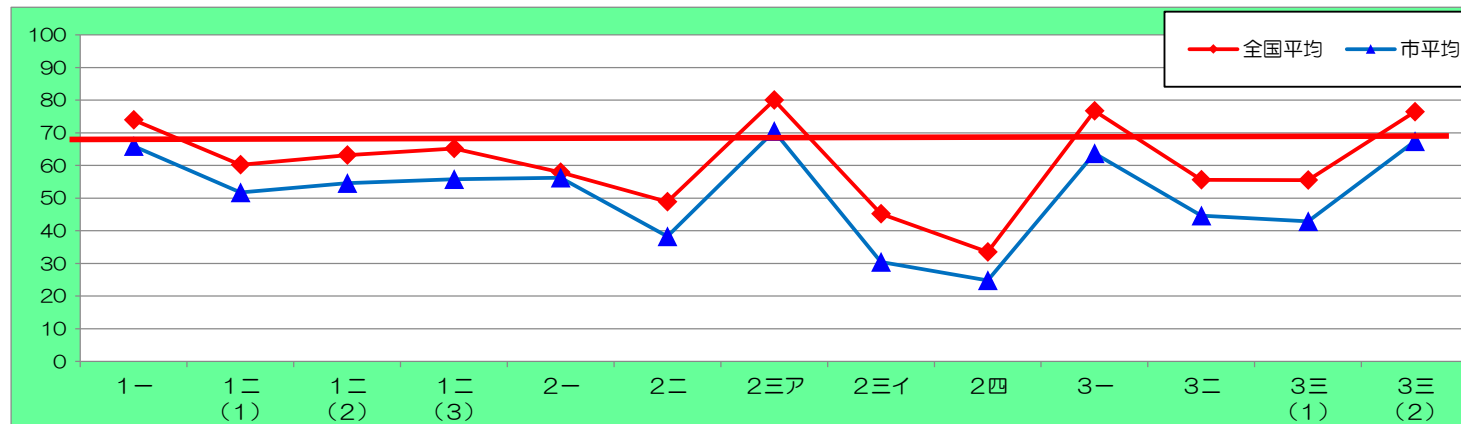
引き続き、保護者の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い致します。



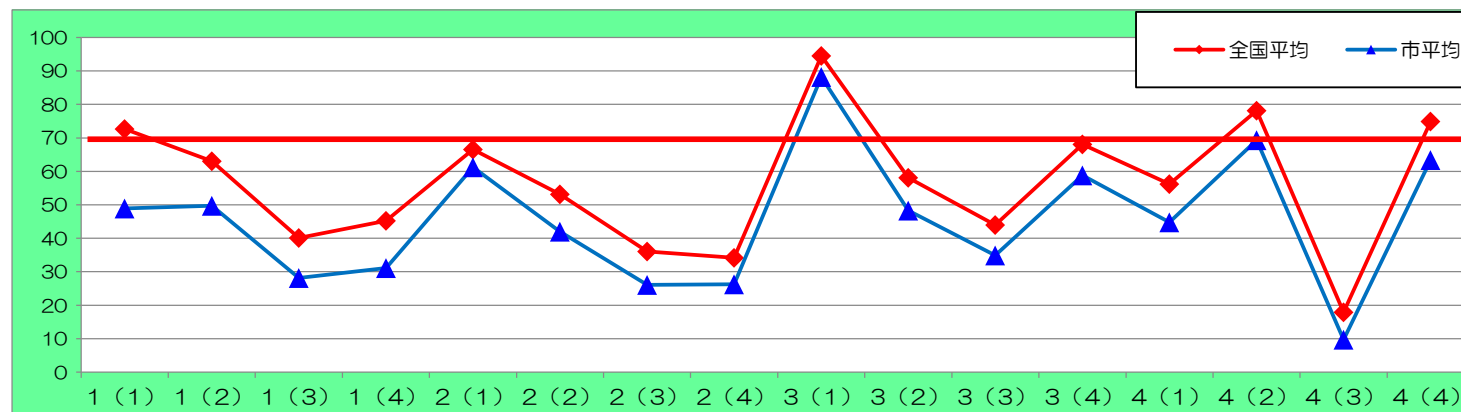
門真市教育振興
基本計画2026

設問別正答率（全国平均正答率と本市平均正答率）

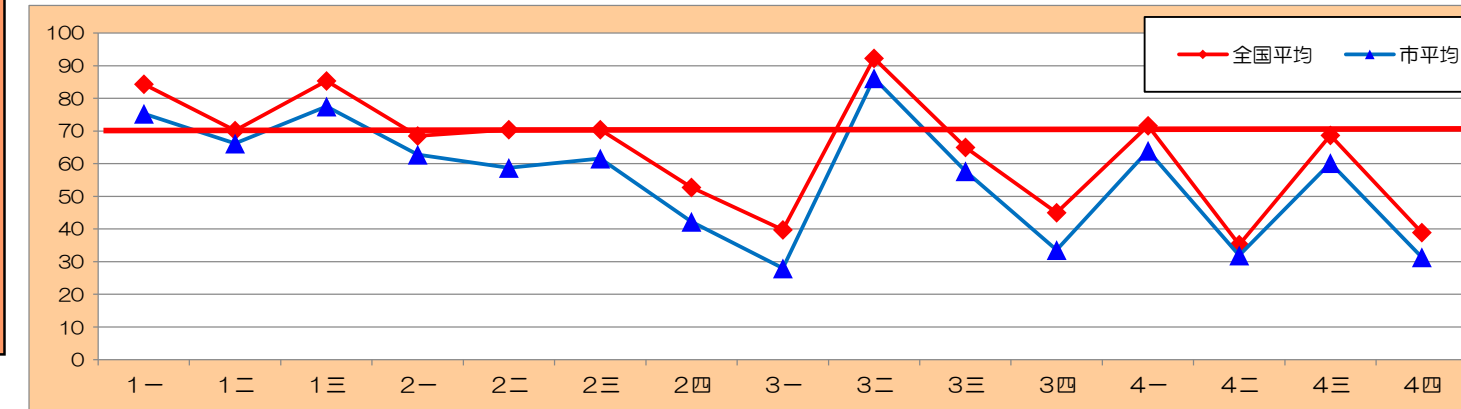
国語・小6



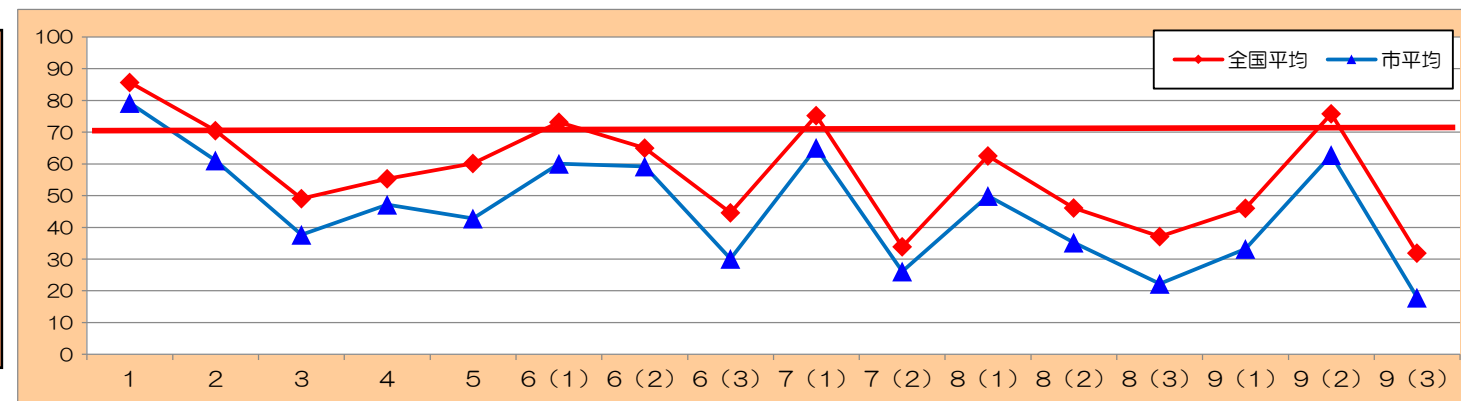
算数・小6



国語・中3

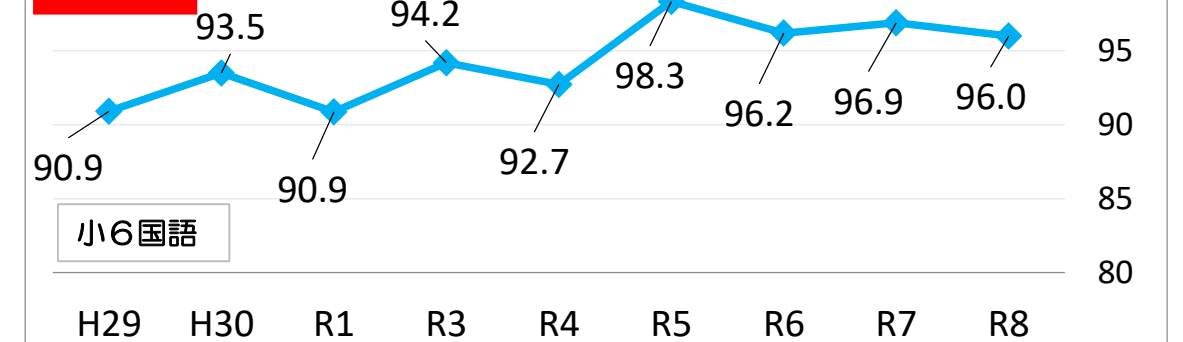


数学・中3

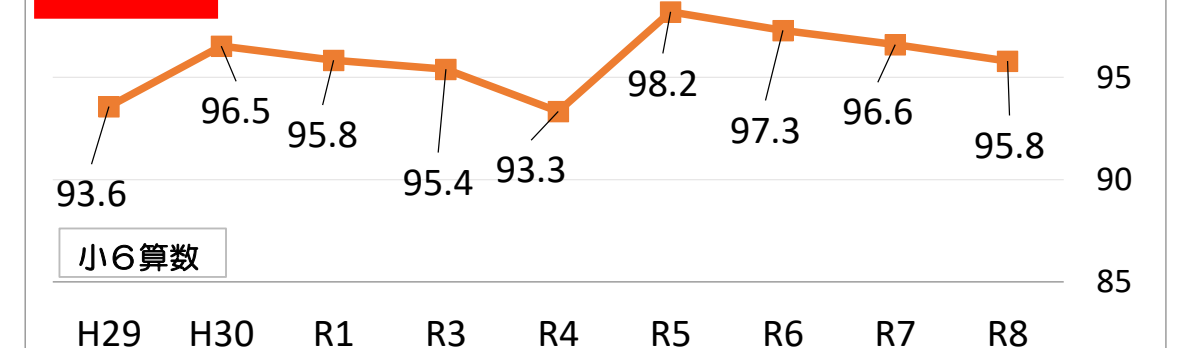


標準化得点を活用した対全国比経年比較（教科別）

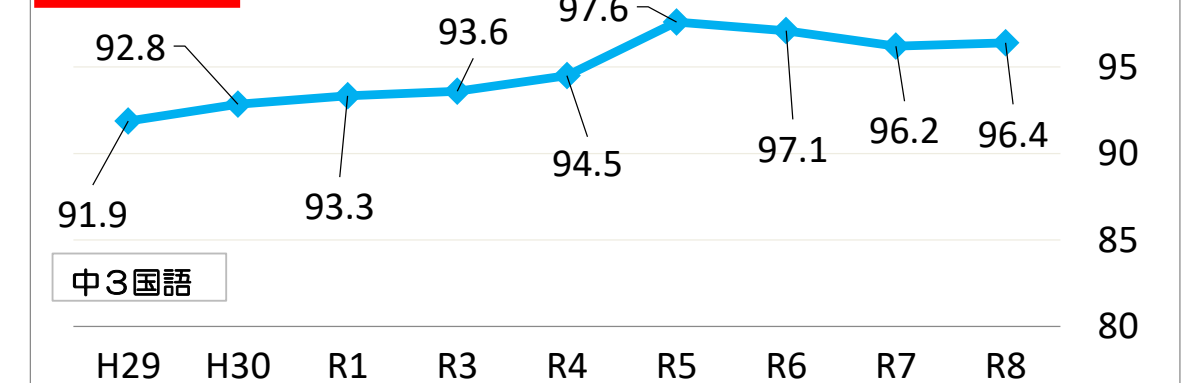
全国



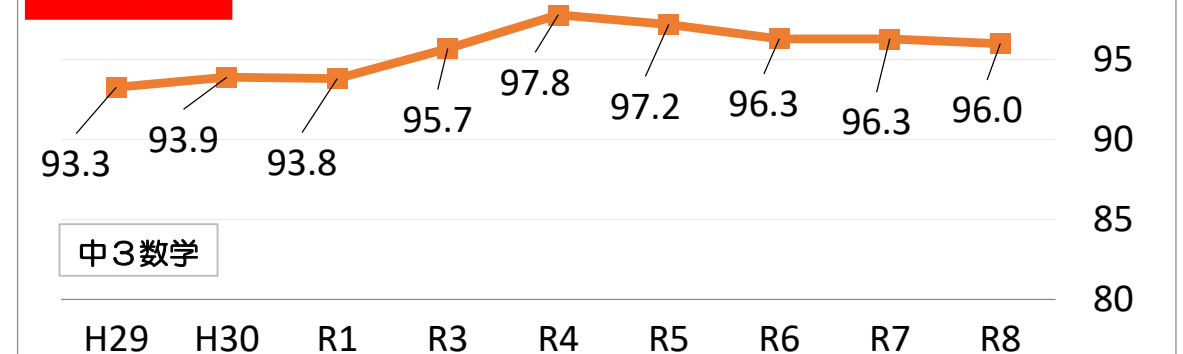
全国



全国



全国



※中学校英語においては、CBT調査により、全生徒が同一の問題に取り組んでいないため、設問別正答率等の結果については記載しておりません。

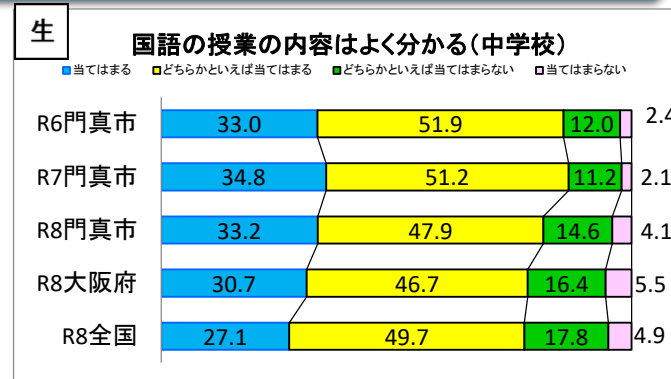
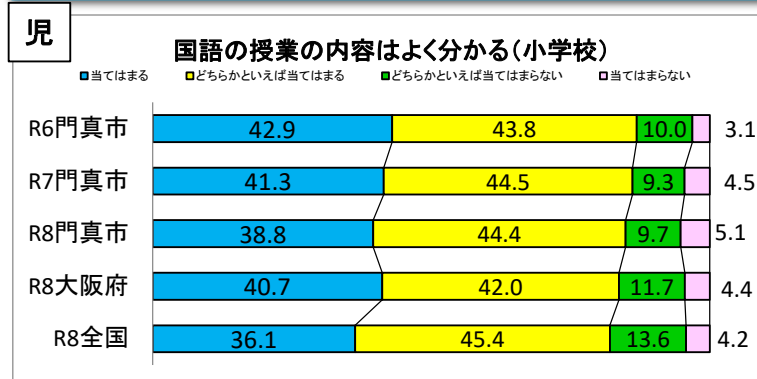
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

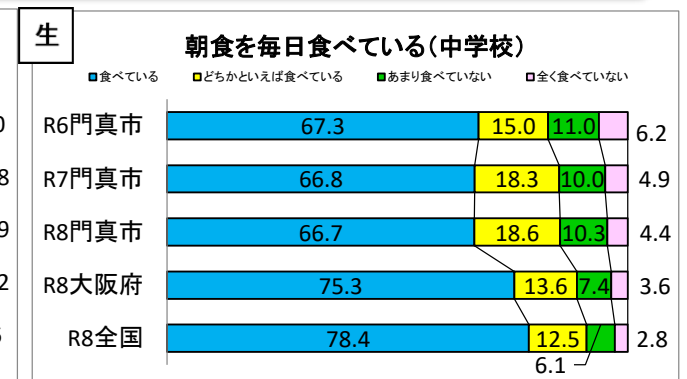
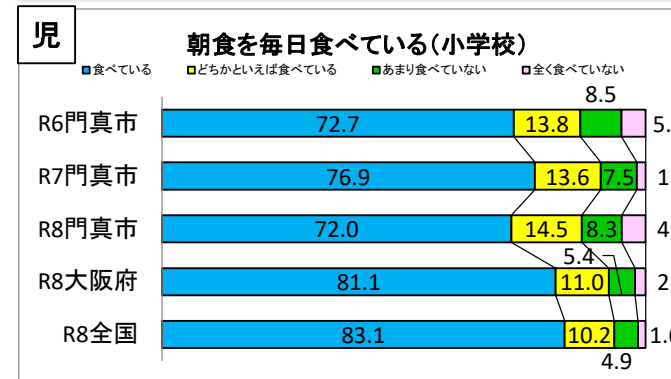
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

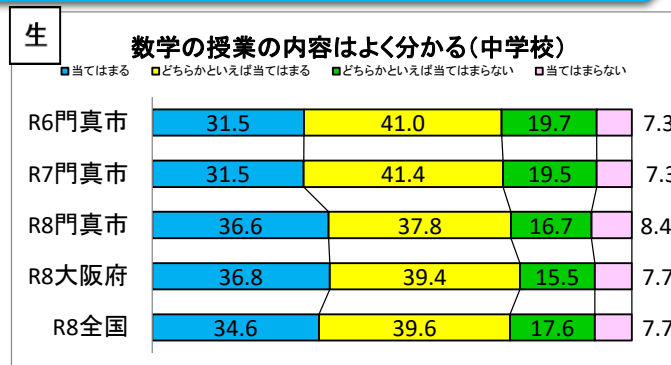
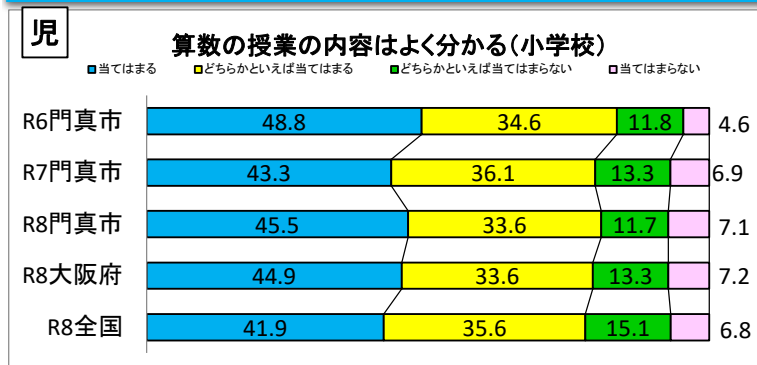
国語の学習内容の理解について、児童生徒ともに減少



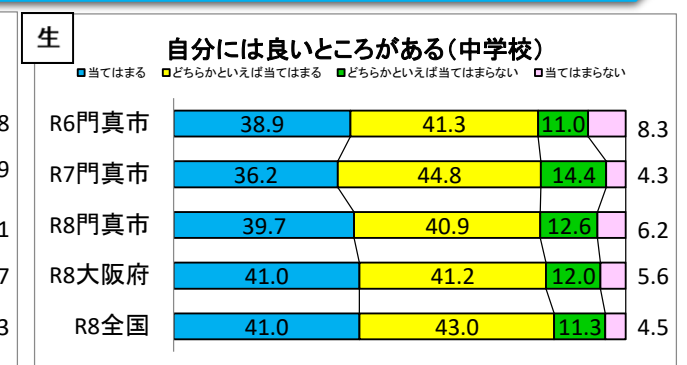
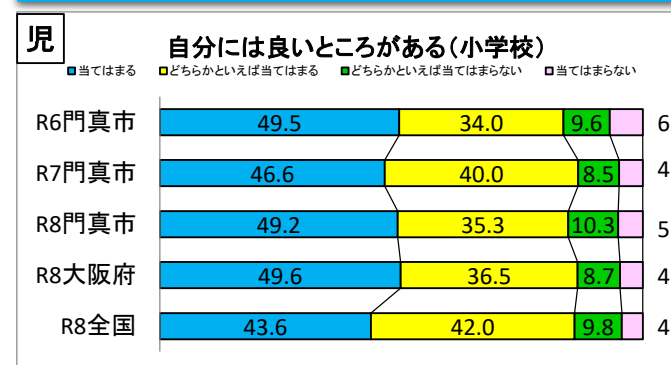
朝食を毎日食べている生徒が増加（※）



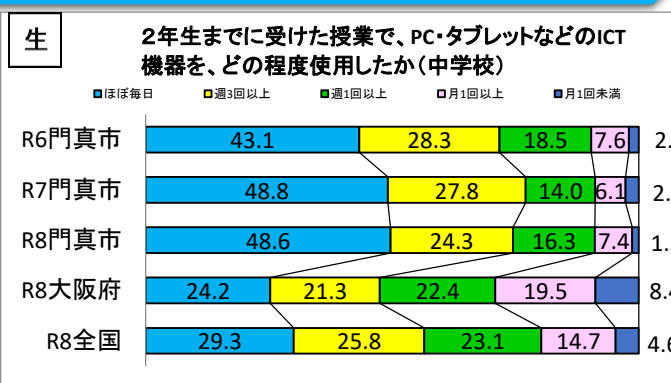
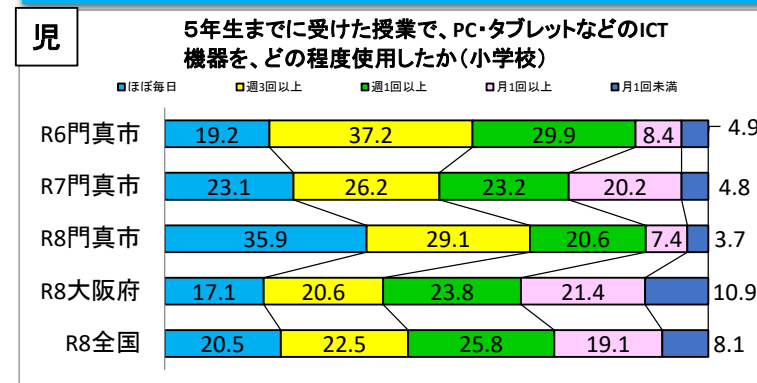
算数・数学の学習内容の理解について、生徒は増加



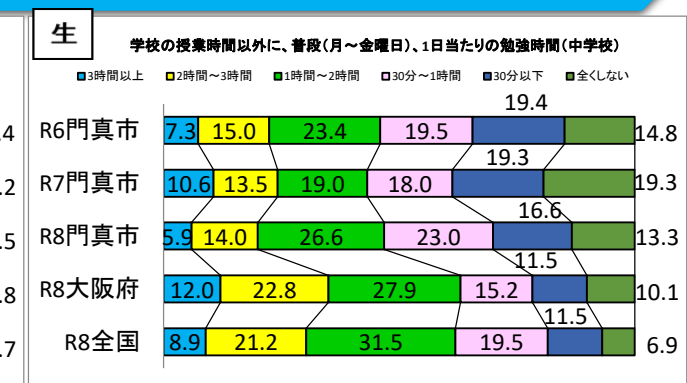
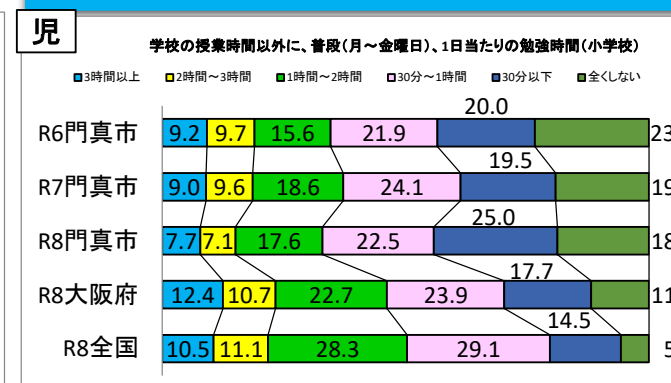
自分には、よいところがあると感じる児童生徒はともに減少



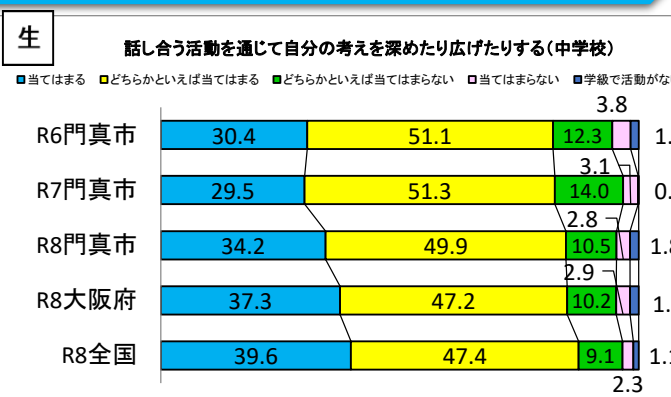
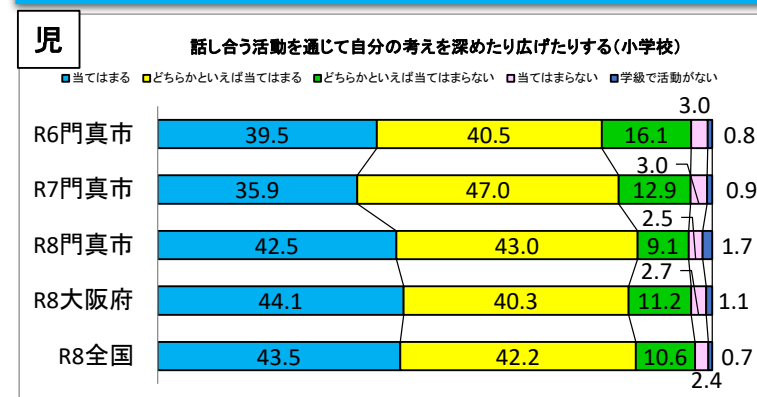
授業でICT機器（PC・タブレット）を使う場面、週3回以上において、児童は増加



学校の授業時間以外に1日あたりの勉強時間1時間以上において、生徒は増加



話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたり出来ている児童生徒ともに増加



（※）門真市教育委員会と学校が連携し、全国学力・学習状況調査の結果の分析を基に、児童生徒の資質・能力をより良く育成する授業改善及び学校教育環境の改善をさらに行ってまいります。また、「早寝・早起・朝ごはん」など、安定した生活習慣と子どもの学力には相関関係があると、言われています。全国学力・学習状況調査の結果が返却される機会に、お家でもお子さまと生活習慣について、本資料を活用し、お話しする機会をつくっていただければ幸いです。



小学校（第6学年）

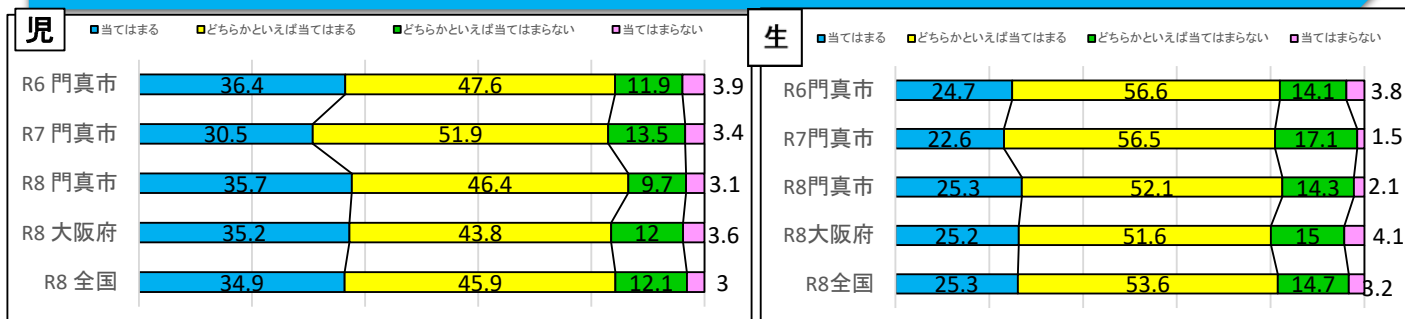
中学校（第3学年）

小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

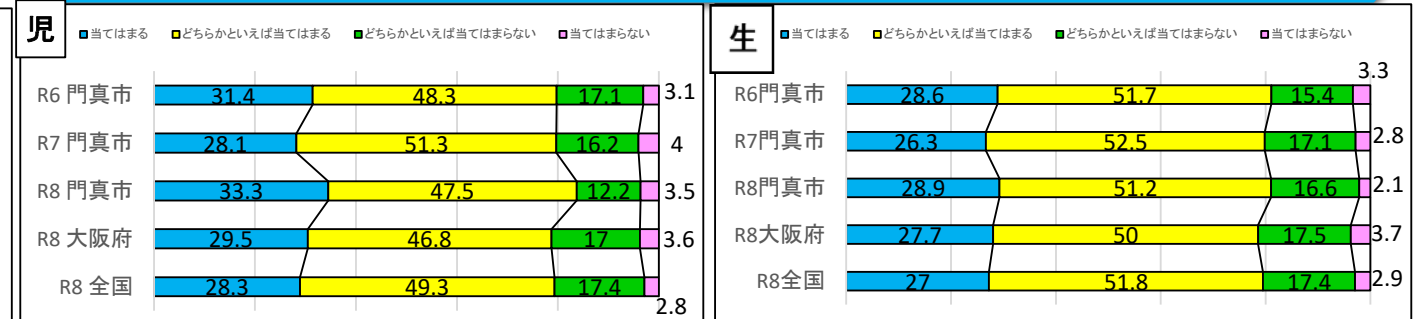
①授業は自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている

児童生徒ともに減少



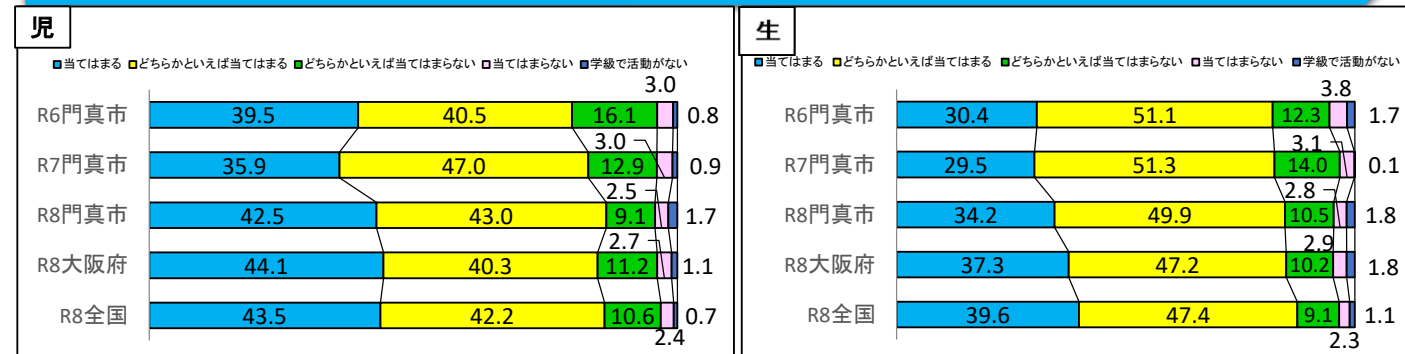
⑤授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

児童生徒ともに増加



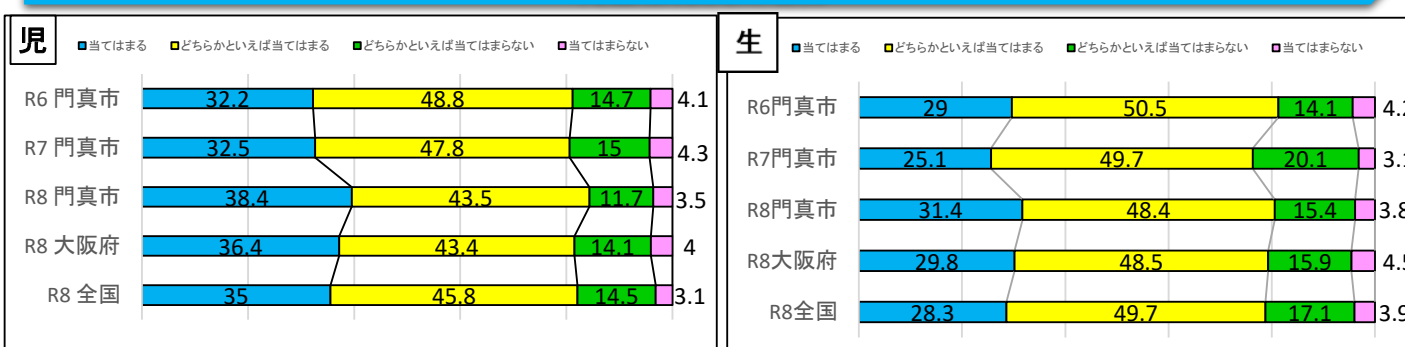
②学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

児童生徒ともに増加



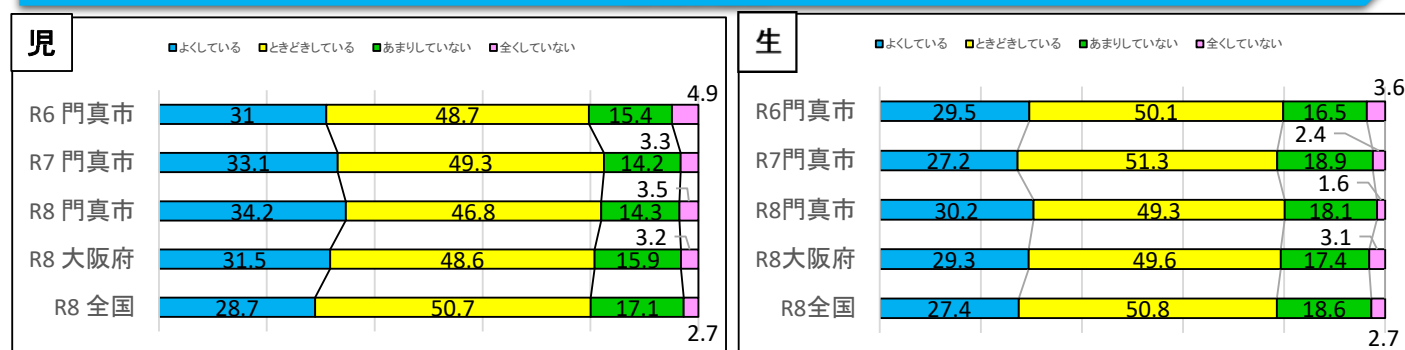
③授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる

児童生徒ともに増加



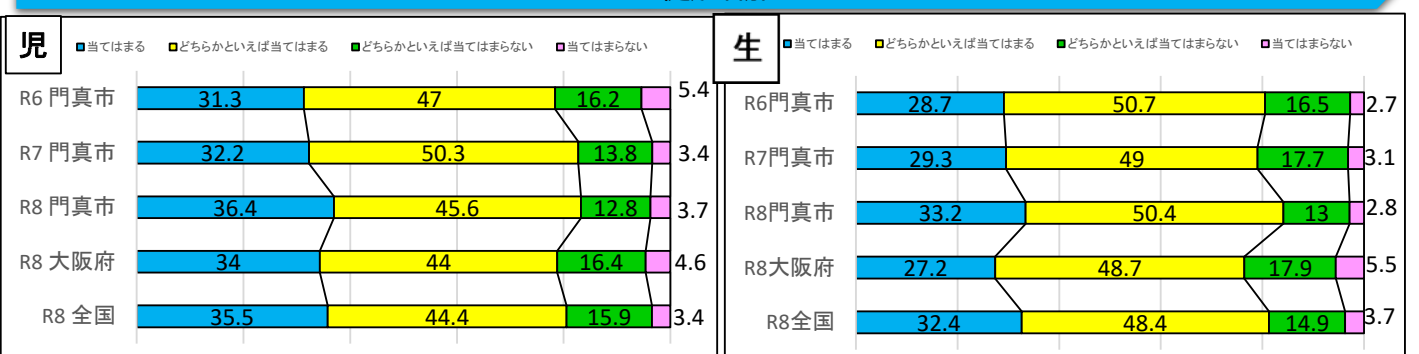
④分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができている

生徒が増加



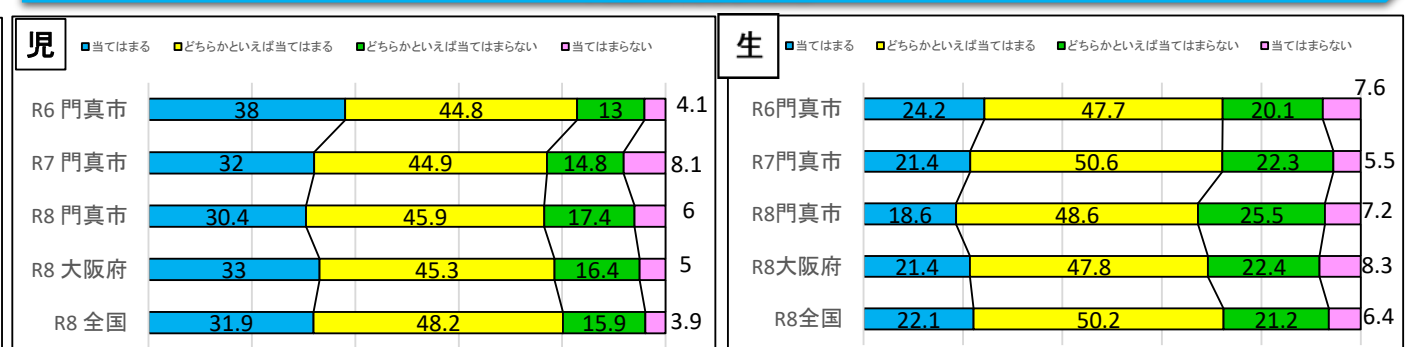
⑥総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

生徒が増加



⑦地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある

児童生徒ともに減少



「学びに向かう力、人間性等」については、本市がめざす「主体的に学びに向かう力」と「課題を発見・解決する力」の育成に向けて、児童生徒質問調査より関係する項目を7項目に整理しました。令和8年度は、児童では項目①、③、④、⑤、⑥が、生徒では項目③、④、⑤、⑥が全国値（肯定的回答）を上回る結果となりました。

この「学びに向かう力、人間性等」は、学びに向かう土台として考えており、この力の向上が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の向上へつなぐと考えております。

